

今月の人 逃げるが勝ち—災害は忘れたころにやってくる—

岩手県県土整備部 砂防災害課課長

野中 聡



ある民放番組で、沖縄県の石垣島と西表島に挟まれた石西礁湖海域にある珊瑚礁の一部が死滅しているというを取り上げていました。

また、昨年、熊本県の天草地方を訪れた際に、沖縄から流れてきた熱帯魚が越冬するようになってきたという話を地元の方から聞く機会がありました。いずれも海水温度の上昇、すなわち地球温暖化が原因ではないかとのことです。

記録的寒波、豪雪、梅雨前線停滞、局地的豪雨等々私たちの生活に密接に関係する最近の気象状況の変化が地球温暖化によるものであれば大きな不安を覚えます。

一昨年は、新潟、福井での集中豪雨、台風10個の上陸などにより全国各地で記録的な災害が続発しました。今年も、偏西風の蛇行に起因する梅雨前線の停滞等により九州や長野など全国各地で豪雨災害、土砂災害が発生し、多くの尊い命が奪われています。

これだけ豪雨災害が頻発すればもはや「異常」気象という言葉がふさわしくないのかもしれませんが。当り前の気象状況として防災対策を考える時期なのかもしれません。

これを裏付けるデータとして、近年、日本の年降水量の変動幅が大きくなっている傾向にあり、また、過去10年間ごとの豪雨発生頻度が多くなっています。

具体的には、全国で時間雨量100mmを超える豪雨の頻度は、平成8年～15年の平均4.8回に対し、平成16年は7回も発生しています。

岩手では、平成14年に台風6号により大きな災害が発生しました。今年も、冬の異常寒波による道路の凍上災、局地的豪雨による岩手山麓での土石流災害、台風12号による波浪災害等々が発生しています。九州や長野県で起きている大災害は決して「対岸の火事」ではないのです。

被害を受けた方々から「こんなことは今までに無かった。」とか「まさかここで・・・」という言葉が良く聞かれます。

私は今年から砂防災害課に勤務しておりますが、昨年まで2年間国土交通省河川局防災課において全国各地で発生した災害現場の復旧に携わってきました。

そのときの感想として、「まさか自分の住む地域では起きないだろう」という勝手な思い込みはやめていただき、「自然現象は、いつ、どこで、どのような規模で起こるか分からない」ことを理解していただきたいと思います。

県では、土砂災害対策のために砂防ダム等の施設整備を行なっていますが、併せて、土砂災害警戒区域等の指定や避難の判断情報提供のための土砂災害警戒情報システムの構築を進めています。

地域に潜在する危険性や土砂災害が発生する可能性のある気象状況をお知らせする行政の「知らせる努力」をご理解していただき、一方で、時には家の裏山を歩いてみるとか、災害時にはどこに避難すべきかなど災害への普段からの備えとして住民の「知る努力」も期待したいと思います。

災害は忘れたころにやってきます、家の周りをもう一度点検し、気象情報に注目し、いざという時には「逃げるが勝ち」の格言にありますように早めに避難することが大切です。

